

# 中古救急車援助事業 報告書

平成19年度

スーダン共和国 ガダーレフ州



夕刻、ガダーレフ州ハサバラ村を後にする救急車

平成19年10月

社団法人 日本外交協会

## 1. 本事業の趣旨

日本において、救急自動車・消防自動車・塵芥収集車といった特殊自動車は、自治体の管理下で所有・利用され、一定期間の後に廃棄される。ただし、処分直前までは予備車として、各消防本部や各自治体にて整備された状態で保管されているのが通常である。日本国内で使用し続けることが困難になった中古車両でも、使用中の保管・整備が徹底されているため状態は良く、このような車両が不足している開発途上国からは、ぜひ使用したいという要請が多い。

社団法人日本外交協会では、各自治体やその消防本部に対して、車両廃棄予定を調査の上、要請条件に合うものを譲渡していただけるよう、協力を依頼している。譲渡を受けた車両は、引き取り、整備・修理、輸送の手配等を日本外交協会の責任において行い、要請のあった途上国に送り届けることになる。その際には、外務省と協議しながら、政府開発援助（ODA）の中の「日本NGO連携無償資金」等を利用し、その後5年間程度は使用してもらえるような状態で現地へ搬送している。

## 2. 要請団体

スーダン国 ガダーレフ州

## 3. 供出団体と譲与車両

救急車 1台

・飯田広域消防本部 トヨタ 車台番号 LH1291002312 1995年製

## 4. 実施の経緯

### <要請の背景>

スーダンはアフリカ大陸で最大の面積を有する国であり、最近では西部での民族紛争が注目を集めているが、他の地域は比較的落ち着いた情勢にある。ガダーレフ州は東部国境地帯に位置しており、降水量は比較的多いが、道路網は整備されていない。マラリア、リーシュマニア症などの熱帯病が蔓延している地域だが、医療施設及び医療スタッフが不足しているために住民による医療サービスが行き届かない。治安は比較的落ち着いているため日本人による活動も可能になってきている一方で、国際機関やNGO等の関心はダルフルなどスーダン南西部へ集中する傾向が強まっているため、これまで同地区はの医薬品の供給を行ってきた国境なき医師団の活動も2005年をもって終了するなど、外部からの支援が断たれてきている。

今回の車両はガダーレフ州で活動する日本人を中心としたNGOロシナンテスを通じて、州政府に寄贈した。ロシナンテスは、2005年7月に州からの支援の要請を受けて、共同視察を実施、8月には現地の小児栄養状態の予備調査も行ったところ、

大半の子供が発育不良状態であることが分かった。その後も現地医療関係者や住民グループとの対話を重ねた調査を踏まえ、州保健省に対して支援の意思表示を行った。その結果、同州保健大臣も、ロシナンテスの活動を歓迎し、継続的に協力すると約束している。

今後は巡回診療サービスを提供する予定である。また各村落をまわって保健教室を開催し、十分な診療が提供されていない地域住民に、知識を普及することで、この地域の保健環境、母子保健、感染症対策、公衆衛生の向上に貢献することが期待される。

#### <輸送と整備について>

車両は日本の国内で整備した上で輸出している。内部の装備点検、必要な部品の交換、外装塗り直しに加え、車両の前面、及び側面には、日本の援助として送ったことを示すODAマークや、交差して並ぶスーダンと日本の国旗を貼付した。

#### 6. 要請から実施までの流れ

平成17年	秋	現地のロシナンテスより中古救急車供与の要請が届く。
		外務省民間援助連携室に「日本NGO連携無償資金」の申請相談を開始。
平成18年	3月	ガダーレフ州とロシナンテスの間で相互協力の合意文書を交換
	8月	ロシナンテスがスーダン国内でNGOとして承認される。
平成19年	2月13日	外務省において「日本NGO連携無償資金」による事業が承認され、資金の供与を受ける。
	3月12日	車両整備。横浜港より出港。
	4月18日	スーダン港入港。その後、ガダーレフ州により、輸入許可の諸手続きを行う。
	9月11日	引渡し完了。ガダーレフ州内で活動開始。

※通関規制が厳しくなっており、免税手続きや通関完了までに長い時間がかかりました。

#### — 別添資料 —

- ・ 【地図】 スーダン共和国
- ・ スーダン共和国 基本情報
- ・ 受領書（写し） 英語／和訳
- ・ 写真：救急車現地到着後の活用の様子

【地図】 スーダン共和国




スーダン共和国 基本情報

面積	250万平方キロメートル（日本の約6.6倍、アフリカ大陸最大）
人口	3,552万人（2004年）
首都	ハルツーム（人口約494万人）
人種	アラブ系40%、アフリカ系31%、その他（ナイロン・ハム等）
言語	アラビア語（公用語）、英語
宗教	イスラム教（主に北部）、キリスト教（主に南部）、土着宗教
主要産業	農業、林業、畜産業、漁業（GDPの36.6%）（1999年）
GDP（米ドル）	196億ドル（2004年）
一人当たりGDP（米ドル）	570ドル（2004年）
我が国の援助実績 （2005年度までの累計）	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 有償資金協力 105億円（交換公文ベース）</li> <li>(2) 無償資金協力 867億円（交換公文ベース）</li> <li>(3) 技術協力実績 54億円（JICAベース）</li> <li>(4) 1992年度から、人道・緊急援助を除き援助を停止していたが、2005年以降、一部の無償資金協力、開発調査を含む技術協力等を再開。</li> </ul>
主要援助国（2006年）	米、スウェーデン、オランダ、カナダ、ドイツ

添付： ガダーレフ州保健大臣からの受領書（2007年9月11日付け）

FROM : FAX NO. : 00249441843769 Sep. 11 2007 12:14PM P1


 


وزارة الصحة - وزارة الصحة  
مكتب الوزير

NO: 44 / W / 1 / DATE: 11 / 9 / 2007

**TO: JAPANESE GOVERNMENT**  
**SOCIETY FOR PROMOTION OF JAPANESE DIPLOMACY**

I hereby acknowledge receipt of one ambulance sent to my end from the Society for Promotion of Japanese Diplomacy .Handover was accomplished with NGO Rocinnantes .

  
Mustafa Elsayed Elkhali  
(the consignee)  
Minister of health  
Gadara State



E-mail : Healthmg @ yahoo 202 بريد الكتروني (0912331078) فاكس (44420) موبايل (43073) تليفون رقم :

(和訳)

日本国政府 殿  
社団法人日本外交協会 殿

私は、社団法人日本外交協会から送られた救急車1台を確かに受領いたしました。  
NGOロシナンテスより引渡しを完了いたしました。

ガダーレフ州保健大臣  
ムスタファ・エルサイド・エルクハリル（署名・捺印）




## スーダン国ガダーレフ州内移動診療用救急車供与事業



本プロジェクトでは、スーダン共和国の NGO であるロシナンテスに対し、ガダーレフ州における医療活動に役立ててもらうため、中古救急車1台を寄贈しました。

救急車は平成19年3月に長野県飯田広域消防本部より無償提供を受け、日本外交協会の責任において整備したうえで横浜より出荷しました。現地港に4月下旬に荷揚げされた後、ロシナンテスとガダーレフ州により輸入手続きが行われ、9月11日に州の保健省に受領されました。今後は同州ドカ地区にあるシェリフ・ハサバラ村の診療所が拠点となります。

ドカ地区内での巡回診療、救急対応、村人向けの保健セミナー等、幅広い活躍が期待されています。

<p>1 現地到着</p>	<p>コンテナから救急車を引き出す。紅海に面した港町ポートスーダンから内陸部のガダーレフ州までは、500km 以上の道のりを南下した。</p>	
<p>2 ガダーレフ州保健省前にて</p>	<p>左より ロシナンテス 理事長 川原尚行医師 州保健大臣 ムスタファ・エルサイド・ エルクハリル氏 シェリフ・ハサバラ村の 酋長 ハサン氏</p>	
<p>3 州政府前にて記念撮影</p>	<p>後左寄りにロシナンテス川原医師(水色のシャツ)、隣より右へ、ガダーレフ州知事アブドゥル・ラーマン・キディル氏、ハサン酋長、州保健大臣ら</p>	

<p>4    <b>ドカ地区に到着</b></p> <p>活動拠点となるシェリフ・ハサバラ村の人々から、あたたかい歓迎を受けるロシナンテスのスタッフと救急車。</p>	
<p>5    <b>救急車の内部</b></p> <p>早速診療を開始する。</p>	
<p>6    <b>地方診療所前</b></p> <p>酋長以下、村の人々と子ども達。</p>	

<p>7 歓迎のセレモニー</p>	
<p>8 村での往診</p> <p>救急車到着のその夜、急患の呼び出しがあり早速村の家庭へ急行した。</p>	
<p>9 診療所まで患者を搬送</p>	